

事務事業評価シート (評価対象年度：令和 2 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		子どもの居場所づくり事業				②事業番号		7707	
③事業類型		3. 政策推進事業		④開始年度		令和 1 年度	⑤終了予定年度		年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等		法令	条例	規則	要綱	○計画等	その他	法令等の名称 第2次泉南市子ども読書活動推進計画 他	
⑦実施手法		○直営	全部委託	一部委託	補助・負担	その他			
⑧関連予算科目コード		款	9	項	5	目	9	細目	5
⑨担当部名		⑩担当課名				会計		一般会計	
教育部		文化振興課							

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 市内の小・中学生		① 市内の小・中学生(児童・生徒数)		人	
②		②			
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
市内の公共施設で、主に夏休み中の子どもたちの居場所を確保し、その居場所の中で多様な経験・体験ができるように様々な取り組みを行う。約200冊の本を表紙が見えるよう展覧台に並べ、自由に子どもたちが手に取って読んだり、スタッフに読んでもらったりすることで、図書を使った子どもの居場所を提供。		① 延べ実施回数		回	
		②			
		③			
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
子どもの健全育成のため、誰もが自由に立ち寄ることができる本を介した居場所の提供を行う。		① 延べ参加者数		人	
		① 計算式			
		②			
		② 計算式			
		③			
		③ 計算式			
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
図書館資料を使った子どもの居場所の提供及び子どもの読書活動の推進につながる。 図書館への来館が難しい子どもたちにも、本と接する機会となり、図書館を知り読書の楽しさを知ってもらうことができた。 (1—4—2—3):読書活動の推進		政策(章) 1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち			
		施策大(節) 4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします			
		施策中 3 青少年、子どもの健全育成			
		施策小 4 子どもの居場所づくり			

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	
対象指標①	市内の小・中学生(児童・生徒数)	人	—	5,043	4,834	4,699	—	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	延べ実施回数	回	—	10	6	—	—	
活動指標②								新型コロナウイルスによる影響で実施回数を減らしたため参加者減になったと思われる。
活動指標③								
成果指標①	延べ参加者数	人	—	303	107	—	—	
成果指標②								事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③								
事業費	投入人員	人		0.19	0.17	0.17		
	任期付職員	人		0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人		0.03	0.03	0.03		
	事業費	千円		1,515	1,351	1,351		—
	人件費(投入人員*単価)	千円		300	300	300		
財源内訳	直接事業費	千円		1,815	1,651	1,651		
	総事業費	千円		0	0	0		
	国庫支出金	千円		300	300	300		
	府支出金	千円		0	0	0		
	受益者負担金	千円		0	0	0		
その他特定財源	一般財源	千円		1,515	1,351	1,351		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	夏のプール代替事業として、子どもたちが安全に・安心して遊べる夏休みの居場所づくりを、関係機関との連携及び、地域の方々の協力を得て始まった。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	—
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)				[1]の評価
A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い				A
評価項目	評価及び理由・説明等			
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	参加者の声に耳を傾け、地域や他部署との調整をはかりながら進めていく。		

[2]有効性				[2]の評価
A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い				B
②期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	市内公共施設での実施で、新型コロナのため参加者が減少した。		
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	市内公共施設で実施したが、開催場所を各小学校区にし、安全・安心の確保等で参加しやすい状況ができれば、より成果向上につながる。		
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	他部署との連携事業であり、子どもたちが興味を持てる事業を省力化して実施し、大きな効果が得られている。図書を通じて居場所の提供できる部署は他にない。		

[3]効率性				[3]の評価
A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い				A
⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などではできませんか。)	ア. ある イ. ない	子どもの安全を保障した上での事業のため、コストカットはできない。		

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理
	A	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要 夏休みに多様な経験ができる居場所として、一人でもより安全に参加できるよう、青少年センターなどと連携し問題点の検証を行う。図書館資料を通じた子どもたちの居場所づくりを進めていきたい。

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞	
ア ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止	↓ (年まで) ↓ (年から) ↓ (年から)
＜今後の展開方針＞	
a. 重点化する(集中的なコスト投入) c. 効率化する(コストを下げる)	b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など	—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—